

いずみさの昔と今 第243回

「日根対山と小川翠村」

春から秋の作品、
①日根対山が描いた山水図

4月から行う展覧会では、泉佐野市が所蔵する美術作品のうち、日根対山と小川翠村が描いた春、夏、秋を題材にした作品を展示します。3月号、4月号では、それら展示資料の一部を紹介いたします。

日根対山（1881～1869年）は湊出身の画家で、24歳の時に京都へ移住し、文人画家（*1）として大成し、京都で亡くなりました。

今回展示する紙本着色山水図（己酉清和）は、嘉永2（1849）年の4月、対山が37歳の時に描いた作品で、大きさは縦133.5cm、横343.5cmです。長い間、市役所の市民課ロビーの壁面に飾られていたので、ご覧になったことがある人も多いと思います。

37歳の時の対山は、京都の両替町御池下東側に住み、8月には長男が誕生しています。また「酔墨庵」という画室を設けています。この頃の作品の特徴として、色合いが鮮やかで情感のあふれた完成度の高い作品

が多いということがいえます。また、35歳の時に刊行された「皇都書画人名録」（当時の京都で、書や絵を描く人を記した人名録）に「画并書 南宗 日根対山」と記されており、画家として世間で認知されていることがわかります。



▲日根対山が描いた山水図

この山水図は、画面上部におぼろに霞む遠山を薄墨で刷き、中央には藁葺きの家屋を描き、手前右側は岩や樹木を濃墨で力強く描き、左側は橋をわたる人物が遠山を望む姿を描いています。米点法（*2）や皴法を多用しており、文人画派の作風をみることが出来る作品です。

落款は「己酉清和月寫對山中原誠」、印章は「中原誠印」、「誠」です。「中原誠」とは日根対山のこと、対山の先祖が「中原」という姓であったため、若いころの作品には、中原姓の印章が多用されています。また、「誠」という字を用いた印章は、35歳～41歳に描かれた作品にみられます。この作品は先述しましたように、37歳に描いていますので、「中原誠印」、「誠」の印章が使用されたのでしょうか。

（*1）文人画：中国の士大夫（高級官僚）が余技として描いた絵画。画家の内面性、精神性を表現したものです。日本には室町時代に伝えられ、江戸時代中期以降盛んになりました。
（*2）米点法：筆の腹を使って画面に点状に用い、その墨点の集合で形態や量感、濃淡などを表現する技法を、墨点が米粒のような楕円形を呈することから米点法といえます。

春季特別展示

日根対山と小川翠村 ～春から秋の作品～

市内出身の画家である日根対山、小川翠村の作品のうち、春、夏、秋を題材とした作品の展示を行います。

秋を描く小川翠村の「南国の楽土」は、屏風（四曲一双）に、みかん畑とそれを刈り取る人々を描いた作品で、大正10（1921）年に開催された第3回帝国美術院展覧会で入選しました。発表前年に故郷である上之郷母山のみかん山で写生を行い、入念な下準備のもと描かれた作品です。

その他、多くの作品を展示しますので、ぜひお越しください。

期間 4月1日（金）～5月1日（日）（月曜日、4月29日（祝）除く）

場所 レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの

※申込不要、入場無料



▲小川翠村「南国の楽土」▲

레이크アルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの

☎469-7140

Fax469-7141

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日除く）

※4月1日より、休館日が変わります。ご注意ください。

4月1日以降の休館日…月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日、日曜日の場合はその翌々日）

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料

臨時休館のお知らせ

特別展示準備および常設展示のメンテナンスのため、3月14日（月）～31日（木）は臨時休館します。